令和２年度愛媛大学 SDGs推進室等活動報告書

愛媛大学SDGs推進室

SDGs推進室等活動報告書の発行にあたって

愛媛大学では、これまで様々な教育・研究・社会貢献・国際貢献活動をしてきました。その中には、SDGs活動そのものや、それにつながるものが数多く含まれています。各構成員が、SDGs活動をそれぞれ実施するとともに、より大きな力を発揮するために、大学組織として、SDGsを推進することが重要です。そこで、多くの方にSDGsの内容を理解してもらい、学内外の様々な人々と協働しながら、SDGs活動を推進していくべきと考えています。

その第一歩として、このたび、SDGs推進室等活動報告書を作成しました。本報告書は、SDGsとは何かを説明するとともに、主にSDGs推進室の教員等の活動実績と、関連するSDGsの17の目標について紹介しています。

愛媛大学SDGs推進室長　西村　勝志

SDGsとは？

「SDGs（エスディージーズ）」とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、MDGs（エムディージーズ）の後継として2015年9月に国連で開かれたサミットの中で決められた、国際社会共通の目標です。世界が抱える問題を解決し、持続可能な社会を実現するために、世界各国193か国が合意した17の目標と169のターゲット、そして232の指標です。

前身のMDGsとは、2001年にまとめられた2015年までの国際目標であり、1990年代に開催された主要な国際会議・サミットで採択された国際開発目標と、2000年に開催された国連ミレニアム・サミットで採択された国連ミレニアム宣言とを統合して作られた8つの目標です。これらは、開発途上国を中心とする問題を背景としていました。

これらのうち、2015年までに十分には解決できなかった貧困や飢餓の問題・ジェンダー問題・教育や健康の問題のみならず、その間に新たに発生してきた環境問題・社会問題・経済問題をバランスよく統合して解決するために、SDGsは誕生しました。

愛媛大学におけるSDGs推進活動とは？

持続可能な社会づくりに向けてSDGsを達成するためには、地球規模で考えて解決すべき諸問題を自らの問題として捉え、身近なところから取り組むこと（Think Globally, Act Locally）が必要となります。大学構成員の熱い思いが人々を動かし、一人ひとり努力することがより良い社会を創り上げることにつながります。そのため、愛媛大学でなければできないことはなにかを考えながら、地域ステークホルダーとの協働行為により、より大きな成果を求めて邁進していきます。

愛媛大学は、持続可能な社会の実現に向けて、新たな知を求め、必要とされる人材を育成し、地域や国際の枠を超えて様々なステークホルダーと協働し、現代社会が抱える複雑な諸問題を「自分事として考え」・「誰一人取り残さず」・「将来にツケを回さない」ように解決へと導くために、SDGsの達成を目指します。そのために、2019年10月にSDGs推進室を設置し、愛媛大学におけるSDGs活動を、全学的視点から地域や世界に向けて推進しています。

愛媛大学SDGsシンポジウムの様子

SDGsの17の目標
具体的な内容とは？

1 貧困をなくそう

貧困に陥っている人たちをなくし、金銭的にも精神的にも辛い思いをして生活している人を救うことです。貧困とは、貧しくて必要な食べ物や飲み物がなく、住み所もままならないことです。病気やケガで働けなかったり、質の高い教育を受けられなかったことなどでも、貧困は生じます。

2 飢餓をゼロに

飢餓に終止符を打ち、食糧の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進することです。飢餓とは、満足に食べることができず、栄養が足りなくて痩せ細ることです。貧困や疫病、紛争・戦争以外に、自然災害でも、飢餓は生じます。

3 すべての人に健康と福祉を

あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進することです。病気やケガなどを減らし、生活環境における空気・水・土などが汚染されないようにすることが大切です。また、普段から健康診断の受診と運動の習慣化を心掛けましょう。

4 質の高い教育をみんなに

すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供するとともに、生涯学習の機会を促進することです。学校など教育環境の保全以外に、教育者の確保も大切です。

5 ジェンダー平等を実現しよう

男女などの区別なく誰でも、無料かつ公平に質の高い教育を受けられることや、乳幼児教育や初等教育を充実することです。とくに、すべての女性や女の子に男性や男の子と同じような力を与えるために、すべての女性及び女児の能力強化を行うことでもあります。

6 安全な水とトイレを世界中に

すべての人々に水の利用と衛生を確保し、持続可能な管理を確保することです。安全で安心な水が手に入るようにし、汚い環境で生活しないで済むようにすることです。ゴミの適切な処理が実施できなければ、水質汚染など生活環境を不衛生な状態にします。

7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに

すべての人々に安価で信頼できる、持続可能なエネルギーへのアクセスを確保することです。地球温暖化をもたらす温室効果ガス（CO_2など）を発生させないよう、環境にやさしい再生可能エネルギー（太陽光・風力・水力などの発電エネルギー）を安く、いつでも使えるようにすることが大切です。

8 働きがいも経済成長も

包摂的かつ持続可能な経済成長、およびすべての人々の完全で生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用（ディーセント・ワーク）を推進することです。働き方改革を推進し、児童労働や職場ハラスメントをなくし、働き甲斐を高め、生産性を向上させることが大切です。

9 産業と技術革新の基盤をつくろう

強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、イノベーションの拡大を図ることです。災害時に復旧しやすい設備を整え、被雇用者も十分な収入が得られるような産業を創ろうとすることが大切です。

10 人や国の不平等をなくそう

国内および国家間の不平等を是正することです。不平等は、年齢や性別、障がいの有無、人種の違いなどによって起こることがあり、様々な差別、働く機会の不均等、不公平な商品売買取引などがあげられます。人々が平等に能力を強化し、経済格差を是正することが大切です。

11 住み続けられるまちづくりを

包摂的で安全かつ強靭で持続可能な都市および人間居住を実現することです。これは、すべての人々が安全で、心地よく暮らせるまちづくりのことです。

12 つくる責任つかう責任

持続可能な消費と生産のバランスを確保し、廃棄物（危険物を含む）処理を適正に行い、廃棄物の量を測定することです。とくに、プラスチックなど使捨て品の使用を可能な限り抑制することです。便利さを求めるあまり、このままでは、地球の資源が枯渇するだけでなく、ゴミが増え続けてその処理ができなくなります。

13 気候変動に具体的な対策を

気候変動によって世界で起こる自然災害からの影響を軽減するために、具体的な対策を講じることです。まずは日常で、無駄なゴミを出さないことが大切です。無駄なゴミを焼却すると、CO_2が生じ、地球温暖化の原因となります。

14 海の豊かさを守ろう

持続可能な開発のために海洋と海洋資源を保全し、持続可能な形で利用するとともに、海洋汚染を防止すること、また削減することです。我々は、海とそこで暮らす様々な生物から恩恵を受けています。海の生物多様性に悪影響を及ぼさないようにしましょう。

15 陸の豊かさも守ろう

陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の推進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および回復、ならびに陸の生物多様性に悪影響を及ぼさないようにすることです。我々は、森や山などの自然とそこで暮らす様々な生物から恩恵を受けていることを忘れてはなりません。

16 平和と公正をすべての人に

持続可能な開発に向けて平和で包摂的な社会を推進し、すべての人々に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で説明責任のある包摂的な制度を構築することです。世界が平和であるためには、世界各国での暴力をなくすとともに、子供への虐待・搾取を撲滅することが大切です。

17 パートナーシップで目標を達成しよう

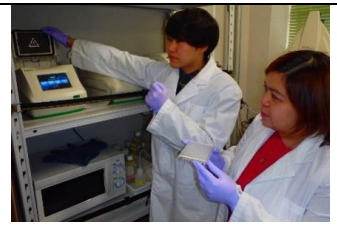
持続可能な開発のための実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化することです。これは、一人では解決できないことも、仲間とともに自分事として関わり、解決していこうということです。

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
1	教育	西村　勝志	社会共創学部	子どものためのSDGs教室	小学生の子供を対象として視聴者が「SDGsとは何か」を理解した上で、SDGsを次世代にまで浸透させ、SDGsの達成に向けて一人ひとりができること、仲間と一緒にできることを実行し続けることで、持続可能な社会をつくることを念頭に置いたSDGs教育です。担当は、SDGsの概要説明です。（CATVなどでも放送されています。） 2021年1月29日撮影【１】SDGsの目標１７を知る（パート１） 2021年2月26日撮影【２】SDGsの目標１７を知る（パート２）	すべて	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「子どものためのSDGs教室」 youtubeチャンネルはこちら「子どものためのSDGs教室」 動画はこちら「子どものためのSDGs教室（パート１）」 動画はこちら「子どものためのSDGs教室（パート２）」
2	教育	小林　修	国際連携推進機構	附属高校文部科学省採択事業WWLコンソーシアムSDGs研修の担当	附属高校文部科学省採択事業WWLコンソーシアム構築支援事業「高大連携の国際化を通したSDGsグローバル人材の育成」において、オンラインによるSDGsに関する教員研修会（第1回）「SDGsの達成に寄与する人材の育成に果たすESDのかたち」と題して、講演を行いました。	4 質の高い教育をみんなに 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナーシップで目標を達成しよう	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛大学附属高等学校WWLコンソーシアム構築支援事業サイト」
3	教育	小林　修	国際連携推進機構	附属高校高大連携事業「グローバルスタディーズⅠ環境教育（実習）」の授業を担当	附属高校高大連携事業「グローバルスタディーズⅠ環境教育（実習）」の授業「高校生として、今すぐ、取り組む「SDGs」～足元から世界とつながる方法～」を担当しました。	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を	
4	教育	小林　修	国際連携推進機構	愛媛大学高大連携事業として宇和高校にSDGs特別講義を提供（3回）	愛媛大学高大連携事業として、宇和高校にSDGs特別講義を３回提供しました。宇和高校生物工学科の生徒20名を対象に、生物工学科の生徒が実施する課題研究についてSDGsとの関連付けを行い、課題研究の進め方についてアドバイスを行いました。（2020年6月11日、11月5日、2021年1月14日）	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛県立宇和高等学校」
5	教育	小林　修	国際連携推進機構	愛媛大学高大連携事業としてSDGs特別講義を実施	愛媛大学高大連携事業として、以下のSDGs特別講義を実施しました。 （１）愛媛県立新居浜南高校（2020年10月2日） 「世界共通のゴール「SDGs」の達成をめざしたESD」 （２）愛媛県立今治北高校（2020年8月24日） 「世界共通のゴール「SDGs」と自分ができること」	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任つかう責任 16 平和と公正をすべての人に	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛県立新居浜南高等学校」 クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛県立今治北高等学校」

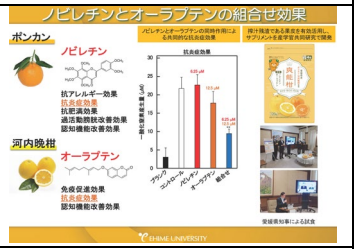
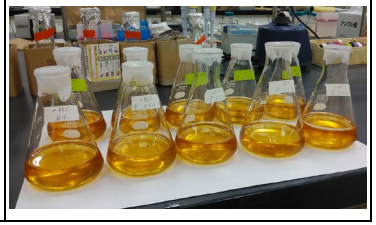
No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
6	教育	小林　修	国際連携 推進機構	校内研修のSDGs特別講義の担当 （久万高原町久万小学校）	久万高原町久万小学校からの依頼を受け、2020年10月15日、久万小学校をはじめ、町内小中学校教員向けのSDGs校内研修「SDGsの達成に貢献する人材の育成- 国連SDGsの達成を目指した環境教育・ESD」を実施しました。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任	
7	教育	小林　修	国際連携 推進機構	地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル型)の課題研究を担当 （愛媛県立松山東高校）	愛媛県立松山東高校において、地域との協働による高等学校教育改革推進事業(グローカル型)の課題研究「Beyond SDGs 2030 – SDGsから見た世界各国の今と、2030年以降の私たちの暮らし」を担当しました。年間20回の授業を担当しました。	4 質の高い教育をみんなに 16 平和と公正をすべての人に	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛県立松山東高等学校」
8	教育	小林　修	国際連携 推進機構	教職員向け人権教育講演会を担当 （私立済美平成中等教育学校）	2021年2月16日、私立済美平成中等教育学校において、教職員向け人権教育講演会「SDGsと人権」を担当しました。いまなぜ、SDGsが世界共通の課題として解決をめざないと行けないのか、SDGsの基本理念にある「誰一人として取り残さない」と合わせて、日本の人権課題の現状と学習方法について知識を提供し、個別相談に応じました。	4 質の高い教育をみんなに 5 ジェンダー平等を実現しよう 10 人や国の不平等をなくそう	
9	教育	小林　修	国際連携 推進機構	東温市役所主催 とうおん子ども科学&環境会議の講座を担当 （3回）	東温市役所が主催する「とうおん子ども科学&環境会議」として、東温市内の以下の小学5年生を対象に環境講座「耳を澄ませば～年輪が語りかけること～ 」を担当しました。 （１）拝志小学校（2020年10月23日） （２）西谷小学校（2020年10月23日） （３）川上小学校（2020年11月19日）	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「親子で考えようCOOL CHOICE in とべ動物園」
10	教育	小林　修	国際連携 推進機構	共通教育発展科目 「環境ESD指導者養成」にて SDGsに関する授業を担当	共通教育発展科目「環境ESD指導者養成」において、「SDGs-グローカル未来創成入門」など、SDGsに関する授業（合計10単位）を担当しました。	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛大学環境ESD」

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
11	教育	小林　修	国際連携推進機構	2020年度教員免許状更新講習「国連SDGsの達成を目指した環境教育・ESD」を担当	2020年度教員免許状更新講習「国連SDGsの達成を目指した環境教育・ESD」を担当しました。非同期型のオンラインコンテンツを録画編集し、授業を2回提供しました。今回は、多様な受講者に対応できるよう、音声のみの非同期型音声コンテンツも別途作成しました。	4 質の高い教育をみんなに 10 人や国の不平等をなくそう 13 気候変動に具体的な対策を	
12	教育	坂本　世津夫	社会連携推進機構	宇和島市「高校生まちづくり課」プロジェクト	「若者が地域に残れる、帰れるまちづくり」をテーマに、市内高等学校の生徒で構成する「高校生まちづくり課」を立ち上げ、カフェ形式によるワークショップで提案がなされたアイデア（うわじま圏域ビジョンマップ、九島ネリーランド構想）の事業化を図るなど、活動を展開しています。高校生が自分たちのまちの将来を考え、直接まちづくりに参画することで、若者が活躍できる場所を提供し、地域との関わり合いと誇りを持たせて、郷土愛を醸成することを目的としています。	11 住み続けられるまちづくりを	
13	教育	和田　寿博	法文学部	公共政策講義（ゼミ）におけるSDGs研究	公共政策課題演習（ゼミ）において、受講生がSDGsの基礎的理解を行うとともに、SDG s に関する文献を検討し、多様な観点でSDGsを検討しました。	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も	
14	教育	和田　寿博	法文学部	高大連携授業・附属高校生対象のSDGsの解説	高校1年生を対象にSDGsを解説し、松山市SDGS推進協議会が取り組む「スマートアイランドモデル分科会」について紹介しました。 同分科会は離島・中島の地域課題を解決し、豊かな自然環境との共生、快適で安全安心な暮らし、島のにぎわいの実現を目指します。 主なテーマとして、再エネの地産地消、島内の周遊性向上と移動手段確保、市内との回遊、島の魅力向上＆魅力発信などを検討しています。	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も	
15	教育	向　平和	教育学部	持続可能な社会を支える人材育成のための課題研究の推進	えひめサイエンスリーダースキルアッププログラムを、愛媛県教育委員会および愛媛県総合教育センター、愛媛県高等学校教育研究会理科部会・数学部会と連携して実施しています。本活動では、本学の多くの教員が関与して、県内の高校生の課題研究を支援しています。その中で、地域や環境に関する課題を取り上げており、SDGsに資する研究も多く、これからの社会を拓く人材育成につながることが期待できます。	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任つかう責任	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
16	教育	向　平和 竹下　浩子 森　貴子 藤原　一弘	教育学部	SDG s を指導できる教員の養成　大学が独自に設定する科目「ESD概論」の開講	2016年の教育学部の改組に合わせて、環境教育概論をESD概論と衣替えしました。当初は環境教育や食育、水環境に関する内容を中心としていましたが、さらにエネルギー環境、歴史学や学校教育と連携したESDなど、多様な講義内容に変更しました。学生の意識も変化しており、当初の受講者は30名程度でしたが、現在は100名を超えるようになってきています。		
17	教育	榊原　正幸	社会共創学部	地域の人々と考える持続可能な未来地域社会	社会共創学部が開講しているプロジェクト基礎演習・実践演習・応用演習において、SDGsの理念を理解しつつ、愛媛県の「四国西予ジオパーク」の活動と地元の人々との関わりを通じて、持続可能な未来可能性のある地域社会の在り方を、地域住民、西予市職員および学生と一緒に考え、課題解決に取り組んでいます。また、西予市の自然、ジオサイト、文化や人々の暮らしについて、インスタグラムで情報発信しています。		
18	教育	入江　賀子	社会共創学部	愛媛県中島の活性化案の検討	2年次授業「フィールド実習」（愛媛県内の農漁村島嶼地域の活性化案の検討）では、高齢化・過疎化が進んでいる農漁村の島嶼である愛媛県中島を、様々な環境プロジェクトなどで、どのように活性化できるかを検討しました。授業には松山市にも参加いただきました。新型コロナウィルス対策のもと、インターネットを利用した遠隔での発表会を行いましたが、みな頑張って面白い発表をしてくれました。		
19	教育	笠松　浩樹	社会共創学部	集中講義「地域活性化論」にて、COVID-19の社会的影響と持続可能な暮らしへの転換をテーマとした授業を実施	COVID-19による社会的影響を概観し、これからの持続可能な暮らしについて、学生同士の議論を中心に意見交換と提案を行いました。その結果、自給力・自活力の向上、マルチワークスタイルの実現、積極的な余暇時間の持ち方、郷土愛の向上、情報リテラシーの向上、海外との積極的な連携等が挙げられました。		
20	教育	堀　利栄	理工学研究科	女子高校生のための理系進路選択支援	科学分野の女性参画を推進し、ジェンダー平等を目指すため、高校生への理系進路選択支援事業を継続的に行っています。2020年度は、女子高校生向け「野外自然科学教室ー地学の面白さを知ろうー」を他協力教員と共に企画し、eGSC高校生と共に、砥部衝上断層見学や、久万層群含有植物化石の観察会を実施しました。		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
21	教育	森脇　亮	理工学研究科	新エネルギーを活用した都市デザインに関する大学院生向けの教育	持続可能な社会を実現するためには、エネルギーシフトは避けて通れません。エネルギー利用の歴史、特徴、最新技術を理解させるとともに、グループによるディスカッションやプレゼンテーションを通して、再生可能エネルギー社会を実現するために必要となるスマートコミュニティや都市デザインのあり方について学習させています。※右の図は、2020年度受講生（大畠慧介・熊谷悠志・林信吾・渡邉友泰）が立案した、立花地区の都市デザインコンセプトです。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 11 住み続けられる まちづくりを 13 気候変動に 具体的な対策を	
22	研究	西村勝志	社会共創学部	Social Enterprise Development in Indonesia by Transdisciplinary Approach	インドネシアは東南アジアで最も人口の多い国であり、その経済は過去数年間で急速に成長しています。しかし、産業発展の遅れによる貧困・そこからの教育不足・不衛生なトイレ事情などによる水源汚染・都市部の環境悪化や交通渋滞による健康障害など、さまざまな問題に直面しています。同国の持続可能な発展をもたらすためには、そうした社会問題の解決につながる社会的企業を支援し、育成する必要があります。これに応えて、この研究論文の究極的な目的は、インドネシアの社会的企業をどのように進展させるかを模索することであり、社会的問題を解決へと導く最も重要なポイントの1つは、社会的企業を形成することです。社会的企業は、私企業・中央政府・地方自治体では形成できないコミュニティサービスを形成できるからです。そのために、さまざまなステークホルダーと科学者の間のコラボレーション（共同設計・共同制作・共同配信）の下、超学際的アプローチ（TDアプローチ）を適用することによって、社会問題を解決する可能性を追求しています。	1 貧困を なくそう 2 飢餓を ゼロに 3 すべての人に 健康と福祉を	クリックすると、該当ページへ移動します。 論文はこちら クリックすると、該当ページへ移動します。 研究紹介はこちら
23	研究	小林　修	国際連携推進機構	Withコロナ時代に対応したグローカル・サービスラーニングの開発と教育効果に関する実践的研究	Withコロナ時代に対応したグローカル・サービスラーニングを開発し、主としてオンラインで実施するプログラムに関する教育効果を立証するための研究をしました。	3 すべての人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに 17 パートナーシップで 目標を達成しよう	
24	研究	渡辺　幸三	沿岸環境科学研究センター	東南アジアにおける蚊媒体感染症の生態学的制御	フィリピンとインドネシアにおいて、デング熱等を媒介する蚊の生息数や生息分布を制御するための研究を行っています。現地の大学や政府機関と共同研究を進めると共に、現地で技術講習を行ったり、若手研究者を日本に招き、技術習得のためのトレーニングを行うなどの人材育成も行っています。	3 すべての人に 健康と福祉を 4 質の高い教育を みんなに 17 パートナーシップで 目標を達成しよう	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
25	研究	竹下　浩子	教育学部	多様な連携による持続可能な消費者教育の教員研修地域モデルの構築	2018年度から文部科学省の委託による消費者教育推進のための実証的共同研究を、小中高の学校教員、消費生活相談員や消費者行政、NPO団体と連携して行っています。SDGsの教材が少ない中で、授業で使える教材を開発し、教員研修などで紹介してきました。研究活動も３年目となり、このSDGs教材を活用した学校での授業事例が愛媛県内の学校だけではなく、四国地方、全国からも届くようになってきました。	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任 つかう責任	
26	研究	向　平和	教育学部	SDG s に資する教材開発および実践的研究	SDGsに資する教材開発を行っています。これまで地域の環境保全に資する教材開発として、イシガメの保全活動を取り上げたものや生態系のモデル実験などがあります。また、キャリア教育として漁業に関するシミュレーションゲームの開発なども行っています。さらに、それらの実践を通して、子どもたちに対しての効果を検証しています。	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを	
27	研究	榊原　正幸	社会共創学部	水銀のない社会を目指して （総合地球環境学研究所との共同研究）	総合地球環境学研究所におけるプロジェクト実践研究のリーダーとして、愛媛大学の教員・学生と協働して、「水銀のない社会」を目指して、インドネシアおよびミャンマー、さらにはアセアン諸国や世界の様々な国・地域の人々と連携して実践研究を行っています。特に、「零細小規模金採掘」と呼ばれる貧困問題を背景とする開発途上国の人々が行っている違法な活動による水銀汚染を削減する研究に取り組んでいます。	1 貧困をなくそう 3 すべての人に健康と福祉を 6 安全な水とトイレを世界中に	
28	研究	李　賢映	社会共創学部	廃食用油由来バイオディーゼル燃料の焼却炉への活用調査	宇和島市は、回収した廃食油からバイオディーゼル燃料を精製する廃食油リサイクルの先進地域であり、宇和島市地域調査研究事業として、廃食用油由来バイオディーゼル燃料の更なる活用拡大に向けて調査活動を行いました。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を	
29	研究	李　賢映	社会共創学部	衣類の大量消費・大量廃棄軽減に向けて	衣類の大量生産および大量廃棄が、環境に大きな負担をかけており、文部科学省科学技術人材育成費補助事業として、その環境への負担低減にむけて研究活動を行いました。	12 つくる責任 つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
30	研究	渡邉　敬逸	社会共創学部	四国地方における無住化集落の現況調査	人口減少社会に突入した日本にあって、国土の過少利用が大きな課題となりつつありますが、これを如実に現す現象として無住化集落（廃村）が挙げられます。本研究から四国地方では現時点で少なくとも600集落が無住化していること、そして、30年後にその数は1500以上に達することが明らかになりました。無住化集落の多くは山間地に発生していますが、山間地に発生する国土の過少利用は都市部の環境変化とは無縁ではなく、都市の持続性を考える上で重要な視点です。	11 住み続けられるまちづくりを 15 陸の豊かさも守ろう	
31	研究	渡邉　敬逸	社会共創学部	モニタリングサイト1000里地調査	環境省では日本の自然環境の質的・量的な変化の早期把握を目的として、超長期環境観測事業「モニタリングサイト1000」を実施しています。東温市上林地区は同事業における里地調査のコアサイトとされており、県内の複数の環境NPOや地域住民の協働による各種観測事業が年間を通じて実施されています。社会共創学部渡邉研究室では研究および教育の一環として同地での観測事業に参加し、特に人為的インパクト調査（相関植生図作成）における現地調査と地図作成を担っています。	13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
32	研究	荒木　卓哉	農学研究科	愛媛県の裸麦を用いた健康増進への取組	愛媛県の主要農産物である裸麦の高収量安定生産技術の開発や、もち性裸麦の育成に取り組んでいます。元来食物繊維（β-グルカン）が豊富な裸麦に、機能性成分を多く含む形質を付与した高機能性もち麦の育成は、近年の健康志向の高まりと、今後到来する超高齢化社会において、人々を健康増進へ導くものと期待されます。	2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 12 つくる責任 つかう責任	
33	研究	菅原　卓也	農学研究科	柑橘果皮を活用した抗炎症効果が期待できる機能性食品開発	柑橘類の果皮は、搾汁工程において、廃棄物として排出されますが、柑橘果皮には多くの健康成分が含まれています。そこで、柑橘果皮の健康機能を評価するとともに、産学官連携により商品開発をしました。抗炎症効果に着目し、河内晩柑果皮に含まれるオーラプテンとポンカン果皮に含まれるノビレチンを組合せることで、共同的な抗炎症効果があることを解明しました。その成果を活用し、2種の柑橘果皮を組み合わせたサプリメントを開発しました。	3 すべての人に健康と福祉を 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
34	研究	高橋　真	農学研究科	廃食用油を原料とした生分解性潤滑油の開発と環境性能評価	地元企業との共同研究事業として、廃食用油を主原料とした「生分解性潤滑油」の開発と環境性能評価を行っています。一般的な鉱物油原料の潤滑油に比べ、環境中で分解しやすく、土壌や生物に対して優しいオイルです。とくに林業や樹木剪定等に用いるチェンソーオイルとしての利用に向いています。地域で回収された使用済み天ぷら油等を原料として利用するため、循環型社会の推進にも貢献します。	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう	

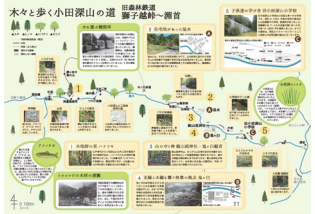
No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
35	研究	治多　伸介	農学研究科	農村地域の水環境の改善 ～世界の農村を衛生的で豊かにする～	「トイレ排水などの下水を簡便、安価に浄化できる水質浄化技術」や「下水から農業に使える肥料成分を回収する技術」さらには「下水処理水を水不足解消のために、農地に安全に灌漑水として利用する技術」といった、日本はもとより、発展途上国を含む世界の農村地域を衛生的で豊かにできる技術の開発研究を推進しています。		
36	研究	山田　容三	農学研究科	SDGs時代の森林管理の理念と技術	日本の森林管理を見直すため、グローバルには環境倫理の概念を尊重し、ローカルには人間の自然への関わり合いを尊重する日本の自然哲学を基本に森林管理の理念を整理しました。そして、持続可能な森林管理を実現するために、森林の環境保全と人間の森林利用のバランスを取る方策について、時空間的な多様性維持の概念と現代における森林と人間の関係性の向上の要素を加えて、７つの森林管理の理念を提案しました。		
37	社会貢献	西村　勝志 前田　眞 小林　修	SDGs推進室	地方創生SDGs官民連携プラットフォームへの参画	この地方創生SDGs官民連携プラットフォームは、国内外の広範なステークホルダーによる積極的な参画と連携の下で、SDGsの達成に向けた取組と、それに資する「環境未来都市」構想のさらなる推進を通じて、より一層の地方創生につなげることを目的にしています。本学も、この趣旨に賛同し、令和2年12月に会員となりました。	すべて	
38	社会貢献	西村　勝志	社会共創学部	松山東高校での講演 「地域社会の持続可能な発展に向けて」 －今、なぜグローカル人材が求められているのか－	2020年6月4日、松山東高等学校の生徒360名を対象に、グローバル化の進展の下、地域社会が持続可能な発展を実現するためには、地域社会においてどういった人材が求められるのかを主題として、講演を行いました。今日、グローバル化の進展に伴って、地域社会も変革の時代を迎えています。そのため、持続可能な地域社会の実現に向けて、なぜ、グローカル人材が求められているのかをわかりやすく伝えました。		
39	社会貢献	西村　勝志 松村　暢彦 井口　梓 前田　眞 和田　寿博 野村　信福 小林　修	社会共創学部 社会連携推進機構 法文学部 理工学研究科 国際連携	松山市SDGs推進協議会との連携 ～活動の中核を担う人材として～	内閣府によるSDGs未来都市に選定された松山市は、SDGs推進協議会を立ち上げ、経済・社会・環境の3側面の統合的取組による相乗効果の創出をもたらすべく、多様な会員企業との連携の下、自律的好循環を構築するモデル事業などを推進しています。SDGs推進室のメンバーがその運営を担い、また分科会においても本学の教員が深く関わっています。		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
40	社会貢献	西村　勝志	社会共創学部	持続可能な道後温泉協議会の会長	持続可能な道後温泉協議会は、道後温泉地域全体のSDGsの取り組みを推進する「持続可能な道後温泉協議会」で、愛媛大学が主体となり、地元団体や行政が経費を負担しながら連携し、ひみつジャナイ基地を活用しながら、持続可能な道後温泉に向けて取り組むものです。その会長として活動しています。		
41	社会貢献	西村　勝志	社会共創学部	SDGsの基本的な考え方・SDGsと自治体との関わり	本講演は、令和3年2月15日に大洲市役所からの依頼で実施したものであり、そのねらいは、SDGsを地方創生の起爆剤として捉えて、持続可能なまちづくりを果たそうとする自治体としてのミッションにあります。また、大洲市役所の職員を対象としており、まず職員がSDGsを理解することで、SDGsの浸透を図ることにあります。その上で、今後の自治体としての在り方についてのヒントを提供するものです。（実施日：令和3年2月15日）		
42	社会貢献	西村　勝志	社会共創学部	ニュース番組において、SDGsについて解説	2021年1月21日（木）、テレビ愛媛にて放送されたSDGsに関する番組の中で、愛媛大学SDGs推進室長として、SDGsとは何かを紹介するとともに、SDGsの背景に、現代社会の問題が複雑につながっていることがあると説明しました。また、一人ひとりが他人事ではなく、自分事として行動し、次世代につけを回さないことの大切さについて発信しました。		クリックすると、該当ページへ移動します。 動画はこちら「SDGs・海洋汚染を防げ！プラガールズの研究」
43	社会貢献	西村　勝志	社会共創学部	愛媛県中小企業家同友会の中予三支部合同新春ハイブリッド例会　with　環境経営委員会による「SDGs をめぐる情勢と自社業務との紐づけ～自分事としてとらえられていますか？～」	これは、2021年1月21日に開催された愛媛県中小企業家同友会によるセミナーであり、講師の一人として招かれたものです。本学の現状とSDGsへの取組みについて講演したものです。		クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛県中小企業家同友会ニュース 」
44	社会貢献	前田　眞	社会連携推進機構	シトラスリボンプロジェクト	シトラスリボンプロジェクトは、新型コロナウイルスに感染された方やその関係者、エッセンシャルワーカーの人たちが差別や中傷を受けない、「ただいま。おかえり。っていいあえるまち」を目指しています。安心の目印であるシトラスリボンを身につけ、誹謗・中傷・差別しない人を可視化するプロジェクトです。このプロジェクトを推進している共同代表として、共感と自発性を共創するワークショップなどを実施し、最終的には、リボンをつけなくてもいい社会を目指して活動しています。		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
45	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	砥部町役場とのSDGs事業推進について連携（2回）	砥部町からの依頼を受け、砥部町職員向けのSDGs研修と、町内の環境教育活動についてのアドバイスを行いました。砥部町が、これまで実施してきた環境教育活動について、今後SDGsに対応した活動に発展させるためのアイディアや実施方法等について意見交換を行いました。	4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任 つかう責任 15 陸の豊かさも守ろう	
46	社会貢献	小林　修 前田　眞	国際連携推進機構 社会連携推進機構	JT（日本たばこ）のSDGs研修を実施	2021年2月19日、JTからの依頼を受け、SDGs推進室の前田先生とともに、推進室JTの社員と関連会社の写真向けのSDGs研修をオンラインで実施しました。	3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがいも経済成長も 12 つくる責任 つかう責任	
47	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	伊予市役所職員向けSDGs研修についてのアドバイス	伊予市役所からの依頼を受け、職員向けのSDGs研修についてアドバイスを行いました。伊予市では、市の政策をSDGsとの関連づけて策定・実施していくことを想定し、まずは職員のSDGsに関する理解促進について取り組むことになり、その方法について意見交換を行いました。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
48	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	新居浜市「働き方改革推進企業　認定式」、「SDGs推進企業　登録式」にて、基調講演を担当	2021年2月17日、新居浜市「働き方改革推進企業　認定式」、および「SDGs推進企業　登録式」において、基調講演「Withコロナ時代に企業としてSDGsに取組む意味」を実施しました。	3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがいも経済成長も 12 つくる責任 つかう責任	
49	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	愛媛県生涯学習センターコミュニティカレッジ現代・教養コース国際理解講座を担当	2020年1月17日、愛媛県生涯学習センターコミュニティカレッジ　現代・教養コース国際理解講座を「愛媛に暮らし続けることで世界共通のゴール「SDGs」にコミットする方法」を担当しました。	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを	クリックすると、該当ページへ移動します。 ホームページはこちら「愛媛県生涯学習センター」

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
50	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	第60回愛媛県高等学校教育研究大会農業部会にて愛媛県農業科教員を対象としたSDGsに関する特別講演を担当	2020年12月21日、第60回愛媛県高等学校教育研究大会農業部会において、愛媛県農業科教員を対象としたSDGsに関する特別講演「SDGsの達成に貢献する人材の育成～SDGsの達成のために農業科教育を生かす～」を担当しました。	4 質の高い教育をみんなに 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさも守ろう	
51	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	太陽石油社員研修2020を担当	2020年12月9日から10日の2日間、太陽石油の入社2年目の社員を対象に、オンライン社員研修の企画・運営を行いました。また、この研修の中で、SDGsに関するワークショップ「太陽石油の未来可能性を追求する！～人類共通の課題であるSDGsへの貢献を通じて～」を実施しました。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 13 気候変動に具体的な対策を	
52	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	日本消費者学会関西支部オンライン講演会「SDGsの実現を目指した多様な連携～愛媛大学の取組を基に～」を実施	2020年11月28日、日本消費者学会関西支部の依頼を受け、当団体総会後のオンライン講演会「SDGsの実現を目指した多様な連携～愛媛大学の取組を基に～」を実施しました。	3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 12 つくる責任つかう責任	
53	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	変えていこう！私たちの働き方・働く環境	松山しごと創造センター主催するイベント「Women's meeting vol.4　変えていこう！私たちの働き方・働く環境」に登壇者として参加し、フリーパーソナリティとして活躍するやのひろみさんやゲストの皆さんと共に、参加いただいた社会人女性、愛媛大学生とオンラインで対話しながら、女性が働きがいを持ち続けられる多様性を大切にした職場と社会のあり方について幅広く意見交換を行いました。	5 ジェンダー平等を実現しよう 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを	
54	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	一般社団法人をかしや主催「太陽の光で電気を作るMINI発電所を作ろう！」の講師を担当	2020年9月19日、一般社団法人をかしやが主催するイベント「太陽の光で電気を作るMINI発電所を作ろう！」において、講演「エネルギーを通じて地域と世界とつながり，つなげる」を担当しました。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
55	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	一般社団法人をかしや主催「太陽の光と，川の水で電気を作るMINI発電所を作ろう！」の講師を担当	2020年11月29日、一般社団法人をかしや主催「太陽の光と，川の水で電気を作るMINI発電所を作ろう！」の講師を担当しました。SDGsにおける再生可能エネルギーの役割について説明を行い，DIYで太陽光発電所を作成するためのノウハウについての研修を行いました。	7 エネルギーをみんなに そしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 13 気候変動に具体的な対策を	
56	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	松山青年会議所例会講演会オンライン対談「SDGsに関して青年会議所に期待すること」を担当	2020年11月17日、松山青年会議所例会にて上映する、講演会（オンライン対談）「SDGsに関して青年会議所に期待すること」を担当しました。	8 働きがいも経済成長も 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
57	社会貢献	小林　修	国際連携推進機構	日本環境教育学会中四国支部特別講演会「愛媛大学におけるESDの取り組み」について特別講演を実施	2020年7月23日、日本環境教育学会中四国支部特別講演会「愛媛大学におけるESDの取り組み」について、特別講演を実施しました。愛媛大学として2006年から実施してきた、環境ESDカリキュラムの歴史について紹介し、2016年からSDGsを取り入れたカリキュラムとしての改革と、実施内容についての情報を共有しました。	4 質の高い教育をみんなに 13 気候変動に具体的な対策を 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
58	社会貢献	竹下　浩子 藤原　一弘	教育学部	松山市観光・国際交流課と連携して小学生向けのSDGs冊子を作成	国際協力・国際理解推進実行委員会のメンバーとして、松山市、松山国際交流協会、NPO法人、教員らと共に小学生向けのSDGs冊子「～まつやまから持続可能な世界へ～みんなで始めよう！未来のためのSDGs」を作成しました。この冊子は、松山市の状況や身近な事例を題材に、子どもたちがSDGsを理解しやすい内容になっており、松山市内の小学校で配布します。	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
59	社会貢献	松村　暢彦 渡邉　敬逸	社会共創学部	のむら復興まちづくりデザインワークショップの支援	2018年7月の豪雨によって、甚大な被害を受けた西予市野村地区を対象に、2019年から多様な主体が参加するのむら復興まちづくりデザインワークショップを実施しています。2019年5月から2020年12月まで、12回の住民参加型のワークショップを開催し、のむら復興まちづくり計画とそれに基づいた基本設計を策定しました。今後も実施計画、社会実験等を地域のステークホルダーとともに進めていく予定です。	11 住み続けられるまちづくりを 17 パートナーシップで目標を達成しよう	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
60	社会貢献	李　賢映	社会共創学部	香川県地球温暖化防止活動推進員研修会での講演	2020年度第1回香川県地球温暖化防止活動推進員研究会において、「地球温暖化対策の更なる普及に向けて：少し異なる観点からの考察」に関して講演を行いました。		
61	社会貢献	李　賢映	社会共創学部	愛媛ふるさと環境大賞審査員	愛媛経済同友会「愛媛ふるさと環境大賞」の審査員を務めました。本賞は環境技術の発展と省エネ・リサイクルの普及促進を図る目的で、特に、顕著な取組をされた企業・団体・個人を対象として表彰を行うものです。		
62	社会貢献	李　賢映	社会共創学部	えひめの環境の未来を考えるシンポジウムでの講演	えひめの環境の未来を考えるシンポジウムにおいて、「気候変動と私たち」を題に基調講演を行いました。身近にできる気候変動対策に関して紹介しました。		
63	社会貢献	井口　梓	社会共創学部	地域文化の継承に資する観光振興の取組	内子町小田深山で失われつつある歴史文化を継承するために、地域住民と協働で旧森林鉄道や林業集落の記憶を聞き書き、記録として保存しました。また、これらの文化資源を活用したサステイナブル・ツーリズムのプログラムとして、高齢化・人口減少・コロナ禍にも対応できるWEB・MAP「木々と歩く」とバーチャルガイドプログラム「森の案内人」を制作しました。		
64	社会貢献	渡邉　敬逸	社会共創学部	ツル・コウノトリと共生するまちづくり	近年、愛媛県西予市には絶滅危惧種であるナベヅル・マナヅル・コウノトリの飛来が続いており、地域住民・西予市・日本野鳥の会愛媛等による各種保全活動が行われています。今年度はこうした保全活動により育まれた人と自然との関係や組織間の協働関係の積み重ねを活かすべく、上記したステークホルダーとともに、鳥類を含めた自然環境保全と地域の持続的発展とを両立させる地域ビジョンの策定に取り組んでいます。		

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
65	社会貢献	渡邉　敬逸	社会共創学部	石鎚山系における人とシカとの共生	四国山地ではシカ食害による林床の裸地化・荒廃に伴う森林生態系の衰退、傾斜地の崩壊、土砂流出が深刻化しており、その兆候は石鎚山系でも徐々に確認されつつあります。こうした状況を踏まえ、愛媛県では産官学の連携組織である石鎚山系生物多様性保全推進協議会を設置し、生態系モニタリング、人材育成、普及啓発に取り組んでいます。今年度は石鎚山系におけるシカ食害をモニタリングするとともに、その調査技能の教授を通じた人材育成に取り組みました。	15 陸の豊かさも守ろう 17 パートナーシップで目標を達成しよう	
66	社会貢献	笠松　浩樹	社会共創学部	「人口減少社会に挑む！フォーラム2020　～人口減少社会にwithコロナ時代は痛手なのか？～」の開催	2020年12月12日、標記をテーマとしたオンラインフォーラムを行いました。報告者による基調スピーチの他、人口減少への取り組み、移住、観光、新たな暮らし方を実践している方々をゲストスピーカーとして招き、報告とディスカッションを行いました。オンラインにて約80名が参加し、生き方の転換、夢のある未来を描く等の意見が出されました。	3 すべての人に健康と福祉を 8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを	
67	社会貢献	山田　容三	農学研究科	森林環境管理学リカレントプログラム	森林環境管理学リカレントプログラムでは、林業、木材製造業、建築業の垣根を越え、森林管理に新たなビジネスチャンスを見出し、森林を未来に繋ぐ環境と資源として地域の振興を推進する社会人の技術と能力の育成を目的として、第一線で活躍する有識者と実務者を講師に迎えて実践的な教育を行っています。また、森林経営管理法に基づく新たな森林管理システムの指導・運営に携わる市町職員等の育成も目的としています。	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 13 気候変動に具体的な対策を 15 陸の豊かさも守ろう	
68	国際貢献	西村　勝志	社会共創学部	国連大学SDGプラットフォームにおける講演「愛媛大学におけるSDGsの取組みについて」	国連大学SDGプラットフォームでは、毎月様々な活動を行っています。そのうち、令和2年12月15日の第3回SDG-UPワークショップにおいて、愛媛大学における特色あるSDGsの取組の一例として、沿岸環境科学研究センターの活動「東南アジア環境健康研究ユニット（代表者：渡辺幸三教授）」について紹介しました。これに関連した海外クロスアポイントメント制度の導入や、SDGs推進室の役割紹介も併せて行っています。	すべて	
69	国際貢献	小林　修	国際連携推進機構	台湾の台中科技大学応用日本語学科とSDGsに関するオンライン国際交流を実施	SDGsに関するオンライン国際交流として、「今回の東京オリンピックで日本は持続可能な社会に前進できるか」をテーマに、台中科技大学ゼミ生8名と、愛媛大学環境ESD指導者養成講座の履修生27名とでオンライン交流会を実施しました。実施後、台中科技大学は、交流会で議論した内容をもとに、研究成果を台中科技大学学内で成果発表し、人気賞を受賞しました。	3 すべての人に健康と福祉を 15 陸の豊かさも守ろう 11 住み続けられるまちづくりを	

No.	活動内容	研究者氏名	研究者所属	タイトル	活動の詳細	関連するSDGs	写真・動画・ホームページなど
70	国際貢献	島上　宗子 小林　修 笠松　浩樹 山藤　篤 竹島　久美子	国際連携 推進機構 社会共創学部	JICA青年研修 「中南米 アグリビジネス・アグリツーリズム」コースのコンテンツ開発と実施	JICA青年研修「中南米　アグリビジネス・アグリツーリズム」コースのオンラインのコンテンツを作成し、2週間のオンライン研修を実施しました。中南米9カ国で地元政府、農協、大学、研究機関などで農業普及、農産物流通、アグリツーリズムなどに携わる若手14名が参加しました。SDGsの達成を意識した農民主体のアグリビジネス、アグリツーリズムの研修とアクションプランづくりを行いました。		
71	国際貢献	榊原　正幸	社会共創学部	プラスティック汚染解決に実践的に取り組む活動 （インドネシア・国立ゴロンタロ州大学との協働）	開発途上国の多くは、いわゆる“プラスティック汚染”と呼ばれる深刻な環境汚染に直面しています。特に海洋の生態系への影響は深刻であり、最終的にこの問題は、食物連鎖の過程で私たち人間にも降りかかってきます。この活動は、インドネシア・国立ゴロンタロ州大学の教員・学生と一緒にプラスティック汚染に関する学習をして、ミャンマーのNPOの活動に学び、自分たちの問題としてプラスティック汚染を捉えなおし、実践的に問題解決に取り組もうとしています。		
72	国際貢献	笠松　浩樹 小林　修 島上　宗子 竹下　浩子	社会共創学部 国際連携 推進機構 教育学部	愛媛大学SUIJIオンラインイベント ～withコロナ時代の持続可能な未来を探求～	日本とインドネシアの学生220人以上が参加し、新型コロナウイルスの時代にどうやって持続可能性を実現させるのかをテーマに、レクチャーと意見交換を行いました。意見交換は、2020年に大きく変わった暮らし方、その中で実践・発見したこと、さらに次の10年間に向けたアイディアなどを出し合いました。最後に、各グループで話し合った内容を共有し、親交を深めながら、両国の事情を知ることができました。		
73	その他	西村　勝志 前田　眞 小林　修	SDGs推進室	大学インパクトランキング2021への登録申請	THEインパクトランキングは、大学の社会貢献の取組みについてSDGsの枠組みを使って可視化するランキングであり、研究力重視の世界版ランキングや教育力重視の日本版ランキングに次ぐ、第3のランキングとして評価されています。本学も、このランキングに登録申請しました。	すべて	